

# 朝日放送グループホールディングス(9405)

2026年3月期  
中間期決算レポート

## GIR View



朝日放送グループホールディングス株式会社  
Asahi Broadcasting Group Holdings Corporation

1

2026年3月期  
中間期 (第2四半期)  
決算概要

### ■ TVスポット広告収入が拡大、放送・コンテンツ事業が黒字化

#### 概況：

朝日放送グループホールディングス（以下、同社）が2025年11月10日に発表した2026年3月期 第2四半期（中間期）決算は、売上高466億円（前年同期比12.1%増）、営業利益12.8億円（同黒字転換）、経常利益12.9億円（同黒字転換）、親会社株主に帰属する中間純利益24.0億円（同黒字転換）となり好決算だった。

同社は、その高いテレビ視聴率を梃子に、テレビ広告市場の活況、大阪・関西万博の開催、阪神タイガースのリーグ優勝などの好材料を着実に収益に結びつけた。好調なテレビスポット収入の寄与が大きい。ライフスタイル事業も増収増益になり、固定資産（駐車場等賃貸不動産）売却益計上などバランスシート改革も進捗した。隙のない質の高い決算だったと総括できるだろう。

#### 部門別動向：

放送・コンテンツ事業が大きく増収増益。  
ライフスタイル事業も新規連結効果で増収増益。

放送・コンテンツ					ライフスタイル				
(百万円)	2025/3 上期	2026/3 上期	前年比	増減率	(百万円)	2025/3 上期	2026/3 上期	前年比	増減率
売上高	35,198	39,881	4,683	13.3%	売上高	6,459	6,805	346	5.4%
放送*	25,682	27,356	1,673	6.5%	ハウジング	4,205	4,763	557	13.3%
コンテンツ*	9,486	12,461	2,975	31.4%	通販	1,586	1,368	△218	△13.7%
その他	29	63	34	116.0%	ゴルフ	492	522	30	6.2%
営業利益	△858	1,219	2,078	—	その他	174	151	△23	△13.4%
					営業利益	7	79	71	986.5%

\*26年3月期から、朝日放送テレビのテレビ動画配信等を、放送事業収入からコンテンツ事業収入に移行しました。  
このため、25年3月期の放送及びコンテンツの数値は同様の方法で集計した参考値です。  
※セグメント外の営業利益に「その他調整額」があります（25年3月期上期：△308百万円、26年3月期上期：△18百万円）

Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

放送・コンテンツ事業は大幅な増収増益だった。放送については、関西地区の視聴率が3半期連続4冠を達成しており、これは開局以来初めての快挙である。これを背景に、スポット広告の関西地区投下増に加えてシェア増を果たし、スポット収入は9.1%増（12.7億円の大増収）になった。

## GIR View(cont.)

1

2026年3月期  
中間期 (第2四半期)  
決算概要

一方、費用は適切にコントロールされている。コンテンツについては、関西・大阪万博関連等のイベントによる増収、TVer収入（動画配信）の増収（約50%増）が寄与した。なお、アニメ関連の主要子会社3社の営業損益を見ると、その赤字額は前年同期比で縮小している。

ライフスタイル事業は新規連結効果が発現している。

ー 関西地区【個人全体】視聴率 25年4月～25年9月\*

各種レギュラー番組の好調に加え、高校野球関連番組、阪神タイガースのリーグ優勝等で4冠を獲得。3半期連続4冠は、開局以来初めての快挙。

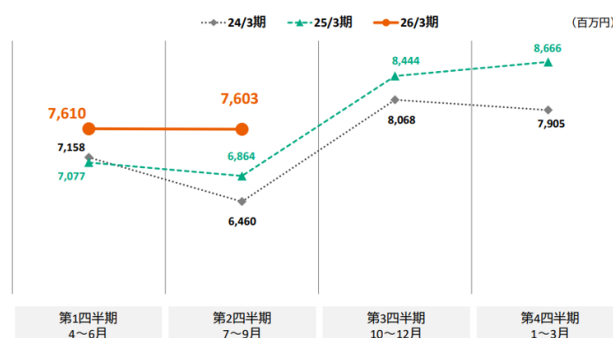
	全日 (6-24時)	ゴールデン (19-22時)	プライム (19-23時)	プライム2 (23-25時)	ABC (テレビ朝日系列)
1	ABC 3.4%	ABC 4.9%	ABC 5.2%	ABC 2.6%	MBS (TBS系列)
2	MBS・KTV・YTV 2.9%	YTV 4.7%	KTV・YTV 4.4%	YTV 2.3%	KTV (フジテレビ系列)
3	*** ***	KTV 4.5%	*** ***	MBS 2.0%	YTV (日本テレビ系列)
4	*** ***	MBS 4.4%	MBS 4.3%	KTV 1.7%	NHK
5	NHK 2.5%	NHK 4.1%	NHK 3.6%	NHK 0.9%	

(\*2025年3月31日～2025年9月28日 出典：ビデオリサーチ)

ー 朝日放送テレビ スポット収入（四半期毎の推移）

テレビ広告市場の活況を背景に、地区投下増。

当社は、シェア拡大と広告単価アップの交渉を着実に実施し、スポットの大幅増収を実現。



前年同期比

上期

109.1%

Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

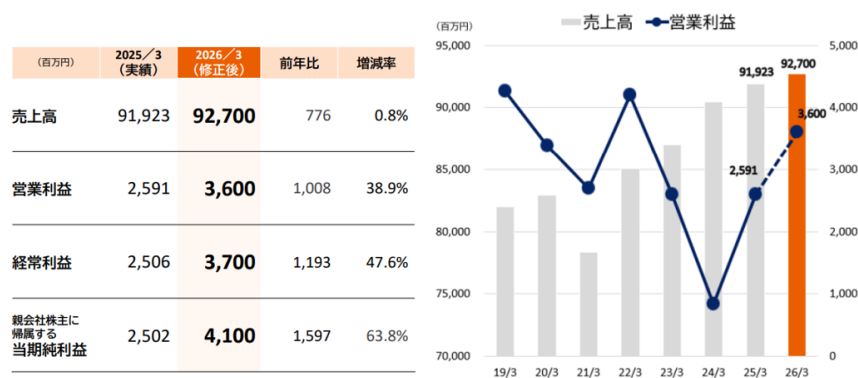
## GIR View(cont.)

### ■ 2026年3月期会社予想を上方修正、配当引き上げも

同社は2026年3月期通期連結業績予想、および配当を引き上げた。上期が好調だったこと、下期が期初想定通りに推移する見込みであることが修正の理由である。売上高927億円（同0.8%増）、営業利益36億円（同38.9%増）、経常利益37億円（同47.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益41億円（同63.8%増）である。1株あたりの配当は中間期8円（同2円増、期初予想比2円増）、期末10円（同3円増、期初予想比2円増）、年間18円（同5円増、期初予想比4円増）である。

・ 2026年3月期 連結業績予想（11月修正）

放送・コンテンツ事業を中心とする中間期までの好調な業績を反映し、通期見通しを上方修正。



・ 2026年3月期 セグメント別業績予想（11月修正）

(百万円)		2025/3 (実績)	2026/3 (修正後)	前年比	増減率
売上高	放送・コンテンツ合計	78,529	78,800	270	0.3%
	放送*	56,997	56,300	△697	△1.2%
	内訳				
	コンテンツ*	21,475	22,400	924	4.3%
	その他	56	100	43	77.8%
	ライフスタイル合計	13,394	13,900	505	3.8%
	ハウジング	8,804	9,400	595	6.8%
営業利益	通販	3,277	3,200	△77	△2.4%
	内訳				
	ゴルフ	1,017	1,000	△17	△1.7%
	その他	295	300	4	1.6%
(百万円)		2025/3 (実績)	2026/3 (修正後)	前年比	増減率
営業利益	放送・コンテンツ合計	2,824	3,400	575	20.4%
	ライフスタイル合計	238	300	61	25.8%
	その他調整額	△471	△100	371	—

\* 26年3月期から、朝日放送テレビのテレビ動画配信等を、放送事業収入からコンテンツ事業収入に移行しました。このため、25年3月期の放送及びコンテンツの数値は同様の方法で集計した参考値です。

Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

2

2026年3月期 通期  
会社予想

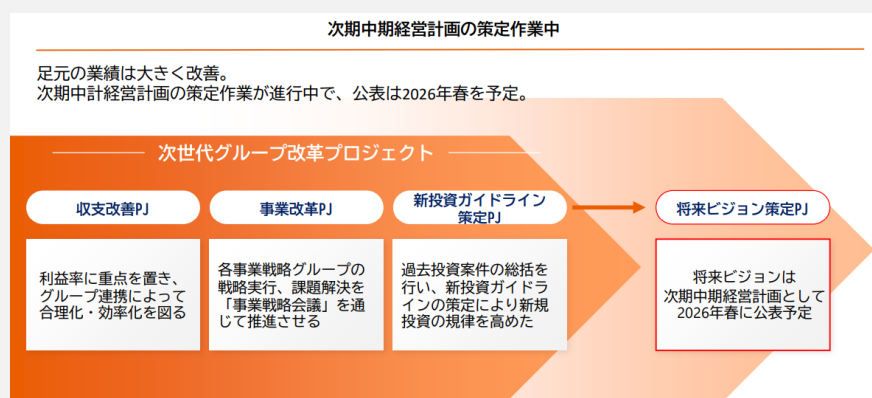
## GIR View(cont.)

# 3

次期中期経営計画の  
策定作業の進捗と  
コンテンツ制作に  
関するトピックス

### ■ 次期中期経営計画の策定作業が進行中

2024年10月より新しい経営体制がスタートし、現行の中期経営戦略2021-2025「NEW HOPE」の課題抽出を行い、収支改善・事業改革を目指して次世代グループ改革プロジェクトとして4つのプロジェクト（以下 PJ）を進めてきた。予定通りの進捗であり、現在将来ビジョン策定PJが進行中で、次期中期経営計画として2026年春発表予定である。



Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

### ■ コンテンツ制作に関するトピックス

今回の決算説明会では、コンテンツ制作力の強化とコンテンツの海外展開に関して以下のトピックスが紹介された。同社は放送・コンテンツ事業において、共創による強力なIPの創出、IPのマルチユース展開、グループ内連携の強化を推進しているが、今回の事例はその進捗を表している。今後の進展が楽しみである。

#### 海外市場を開拓 ―ハリウッドとの共同制作も始動―

アニメーション映画「DEATH STRANDING MOSQUITO（仮題）」の制作が始まる。累計プレイヤー数2000万人のオープンワールドゲーム『DEATH STRANDING』を原作としたアニメーション映画をKOJIMA PRODUCTIONSとハリウッドとABCアニメーションで共同制作する。



(C) KOJIMA PRODUCTIONS Co., Ltd.

Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

## GIR View(cont.)

# 3

次期中期経営計画の  
策定作業の進捗と  
コンテンツ制作に  
関するトピックス

### 次世代クリエイター育成に注力 ―東京都の協定事業者に採択―

ABCアニメーションは『世界に羽ばたくアニメーター等の育成支援事業』協定事業者に採択された。東京コンテンツインキュベーションセンター内に、作画・音声収録・編集までワンストップでアニメ・漫画作品を制作できる『アトリエラボ』を整備。先端技術等の知識・ノウハウの提供やコンテンツ事業者等とのマッチング機会を提供し、次世代クリエイターの事業展開等をサポートする。



クリエイターズワーキングラボ(高性能PC等)



エディットルーム(ポストプロダクション)



サウンドステージ(収録ブース/コントロールルーム)



モーションキャプチャスタジオ

Source: 2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会資料

### 海外市場を開拓 ―海外パートナーとの共創を加速―



**国際コンペティションの  
ContentAsia Awards 2025にて2作  
品が受賞。**

韓国・シンガポールの会社と共同開発した「Miracle100」が2部門で最優秀賞を受賞。1作品が2部門受賞するのは同コンペ史上初の快挙となる。



NBCユニバーサル・フォーマットと共同制作した『シークレットゲームショー2』も優秀賞を受賞した。



## GIR View(cont.)

# 3

次期中期経営計画の  
策定作業の進捗と  
コンテンツ制作に  
関するトピックス

### グローバルコンテンツスタジオとの共創でオリジナル脚本ドラマを共同開発

韓国のプレミアムコンテンツ制作スタジオIMAGINUSと業務提携し、オリジナル脚本のドラマ開発が進行中である。



IMAGINUS: 韓国の人気作品を数多く手掛けるプロデューサー、監督、脚本家等のクリエイターを中心に設立されたグローバルコンテンツスタジオ。

Source: 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会資料

### ■ 2026年3月期の着地、2027年3月期の計画および次期中期経営計画に注目

同社の株価は長年横ばい圏で推移してきたが、2025年に入り上昇軌道に入った。万博終了にあわせて株価は一旦調整したものの、当決算発表を機に急反発し、足元では年初来高値（850円）近辺で推移している。予想PERは8倍台、PBRは0.4倍にとどまっており、株価指標面で過熱感は乏しい。

しかしROEは5%台に止まると見られるため、今後の株価の上昇余地は、当期の業績のアップサイドの余地がどれだけあるか、来期も増収増益を継続できるか、そして来春発表予定の次期中期経営計画においてROEの水準を引き上げる戦略が示されるのか、にかかっていると言える。

すなわち、今後の注目点は次の3点である。

第一に、2026年3月期業績の着地のゆくえである。通期予想は上方修正されているが、上期の上振れを反映したものであり、下期については期初の想定を維持している模様だ。特に注目すべきは、放送事業において前年度下期に生じた競合他局のコンプライアンス問題に起因するプラス効果が減衰するという同社の見立てである。同社のスポット広告の状況は引き続き堅調に推移しており、現行の通期予想は底堅く推移するとみられる。第3四半期決算において通期予想が上方修正されるのかが当面の注目点である。

# 4

今後の注目点



## GIR View(cont.)

第二に、2027年3月期業績予想である。当上期はテレビの高視聴率が、万博などの追い風効果を最大化したと言えるため、こうした外部要因が一巡する来期（特に上期）の業績の行方が次の注目点である。

第三に、次期中期経営計画の内容である。特に注目したいポイントは、事業ポートフォリオの持続的な最適化、強みである放送事業を活用したコンテンツ事業の価値最大化、アニメ事業の着実な収益化、海外へのコンテンツ展開、バランスシートの一部の最適化と成長投資の拡充、および株主還元策の強化である。資本効率（PBR向上）に関する目標や方針について、次期中期経営計画（2026年春公表予定）でどのように提示されるかに投資家からの期待が集まっている。

# 4

今後の注目点



## GIR View(cont.)

連結業績										株価 ¥845 (2025/12/17)
決算期	売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	当期利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	PER (倍)
FY03/2021	78,344	-5.5	2,694	-20.5	3,033	-16.5	-930	赤字化	-22.7	n.a.
FY03/2022	85,100	8.6	4,203	56.0	4,792	58.0	2,671	黒字化	65.0	13.0
FY03/2023	87,028	2.3	2,594	-38.3	2,661	-44.5	1,354	-49.3	32.4	26.1
FY03/2024	90,452	3.9	832	-67.9	723	-72.8	-884	赤字化	-21.1	n.a.
FY03/2025	91,923	1.6	2,591	211.3	2,506	246.6	2,502	黒字化	60.0	14.1
FY03/2026 会予	92,700	0.8	3,600	38.9	3,700	47.6	4,100	63.8	98.2	8.6

出所：会社有価証券報告書を基にGlobal IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入 \*Global IR, Inc.の計算による。会予=会社予測

上期・下期・通期実績および 会社予想							単位：百万円、%		
	2025 年 3 月期			2026 年 3 月期			前年同期比		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期会予	通期会予	上期	下期	通期
売上高	41,657	50,266	91,923	46,687	46,013	92,700	5,030	-4,253	777
放送・コンテンツ事業	35,198	43,331	78,529	39,881	38,919	78,800	4,683	-4,412	271
ライフスタイル事業	6,459	6,935	13,394	6,805	7,095	13,900	346	160	506
営業利益	-1,160	3,751	2,591	1,280	2,320	3,600	2,440	-1,431	1,009
放送・コンテンツ事業	-858	3,682	2,824	1,219	2,181	3,400	2,077	-1,501	576
ライフスタイル事業	7	231	238	79	221	300	72	-10	62
調整額	-308	-162	-471	-18	-82	-100	290	80	371
営業利益率	-2.8%	7.5%	2.8%	2.7%	5.0%	3.9%			
経常利益	-1,047	3,553	2,506	1,297	2,403	3,700	2,344	-1,150	1,194
経常利益率	-2.5%	7.1%	2.7%	2.8%	5.2%	4.0%			
当期純利益	-852	3,354	2,502	2,402	1,698	4,100	3,254	-1,656	1,598
当期純利益率	-2.0%	6.7%	2.7%	5.1%	3.7%	4.4%			

出所：会社有価証券報告書を基にGlobal IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入。会予=会社予想。朝日放送テレビのテレビ動画配信等を、放送事業収入からコンテンツ事業収入に遡及して移行済み。



## 経営指標

### 連結損益計算書 (百万円)

決算期	FY03/2019	FY03/2020	FY03/2021	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026 会予
売上高	81,986	82,937	78,344	85,100	87,028	90,452	91,923	92,700
前年比	1.2%	1.2%	-5.5%	8.6%	2.3%	3.9%	1.6%	0.8%
売上総利益	28,522	27,977	25,951	29,518	28,961	27,546	30,164	
前年比	1.9%	-1.9%	-7.2%	13.7%	-1.9%	-4.9%	9.5%	
売上純利益率	34.8%	33.7%	33.1%	34.7%	33.3%	30.5%	32.8%	
販売費及び 一般管理費	24,260	24,588	23,256	25,315	26,366	26,714	27,572	
前年比	2.2%	1.4%	-5.4%	8.9%	4.2%	1.3%	3.2%	
営業利益	4,262	3,388	2,694	4,203	2,594	832	2,591	3,600
前年比	0.3%	-20.5%	-20.5%	56.0%	-38.3%	-67.9%	211.4%	38.9%
営業利益率	5.2%	4.1%	3.4%	4.9%	3.0%	0.9%	2.8%	3.9%
経常利益	4,591	3,633	3,033	4,792	2,661	723	2,506	3,700
前年比	1.2%	-20.9%	-16.5%	58.0%	-44.5%	-72.8%	246.6%	47.6%
親会社株主に 帰属する当期純利益	3,742	2,278	-930	2,671	1,354	-884	2,502	4,100
前年比	39.0%	-39.1%	赤字化	黒字化	-49.3%	赤字化	黒字化	63.8%
当期純利益率	4.6%	2.7%	-1.2%	3.1%	1.6%	-1.0%	2.7%	4.4%

### 一株当たりデータ (円)

決算期	FY03/2019	FY03/2020	FY03/2021	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025
発行済株式総数(千株)	40,897	40,983	41,030	41,732	41,732	41,774	41,734
EPS	91.6	55.6	-22.7	65.0	32.4	-21.2	60.0
EPS 調整後							
BPS	1,594.8	1,591.6	1,609.4	1,604.9	1,659.6	1,748.0	1,834.6
DPS	28.0	18.0	10.0	24.0	16.0	12.0	13.0



## 連結貸借対照表 (百万円)

決算期	FY03/2019	FY03/2020	FY03/2021	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025
流動資産	37,852	47,307	46,664	49,744	46,385	45,393	49,526
現金及び預金、有価証券	16,537	27,252	27,983	28,301	24,459	25,553	27,078
有形固定資産	37,837	36,944	39,760	41,550	41,181	41,759	43,403
無形固定資産	1,381	1,485	2,995	3,472	3,229	2,292	2,091
投資その他の資産	30,716	29,024	29,614	28,985	31,483	33,763	33,483
投資有価証券	18,406	17,299	18,606	16,900	17,928	19,293	17,354
繰延資産		24	44	34	25	16	33
資産合計	107,788	114,786	119,079	123,788	122,305	123,225	128,538
流動負債合計	13,129	13,647	15,112	18,520	19,601	22,665	20,498
固定負債合計	27,609	32,047	34,266	34,770	30,257	24,406	29,813
負債合計	40,738	45,694	49,378	53,290	49,859	47,072	50,312
自己資本	65,223	65,230	66,035	66,975	69,259	73,022	76,564
純資産合計	67,049	69,091	69,700	70,497	72,445	76,153	78,226
有利子負債	981	6,674	11,910	12,518	12,187	14,122	15,250

## キャッシュ・フロー (百万円)

決算期	FY03/2019	FY03/2020	FY03/2021	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025
設備投資	2,689	2,585	5,116	8,468	7,991	4,094	5,800
減価償却費、のれん償却費	3,031	3,263	3,140	3,373	3,854	3,743	3,655
営業活動による キャッシュ・フロー	3,286	4,546	5,952	4,689	2,951	5,658	5,299
投資活動による キャッシュ・フロー	-2,394	2,655	-10,311	-4,276	-5,046	-5,659	-3,809
財務活動による キャッシュ・フロー	-53	3,203	4,583	543	-1,610	1,145	275

## 財務データ (%)

決算期	FY03/2019	FY03/2020	FY03/2021	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025
総資産経常利益率 (ROA)	4.4%	3.3%	2.6%	3.9%	2.2%	0.6%	2.0%
自己資本利益率 (ROE)	5.9%	3.5%	-1.4%	4.0%	2.0%	-1.2%	3.3%
自己資本比率	60.5%	56.8%	55.5%	54.1%	56.6%	59.3%	59.6%

出所：会社有価証券報告書、決算短信を基にGlobal IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入 \*Global IR, Inc.の計算による。会予=会社予想



## 免責事項

本レポートは、掲載企業のご依頼によりGlobal IR, Inc.が作成したものです。

本レポートは、情報提供のみを目的としており、当該企業株式への投資勧誘や推奨を意図したものではありません。

本レポートに記載されている情報及び見解は、Global IR, Inc.が信頼できると判断した情報源から得、または公表されたデータに基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。しかしながら、正確性、客観性を重視した分析を心がけ、最終的な中立性・独立性には最善の注意を払っています。また、当該企業経営者等とのディスカッション、および独自のリサーチに基づき、我々が投資家にとって重要と思われる視点をGlobal IR, Inc.のオリジナル・オピニオンとして提供しています。Global IR, Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。当該企業株式への最終的投資判断はあくまでも自己の判断・責任でお願いします。